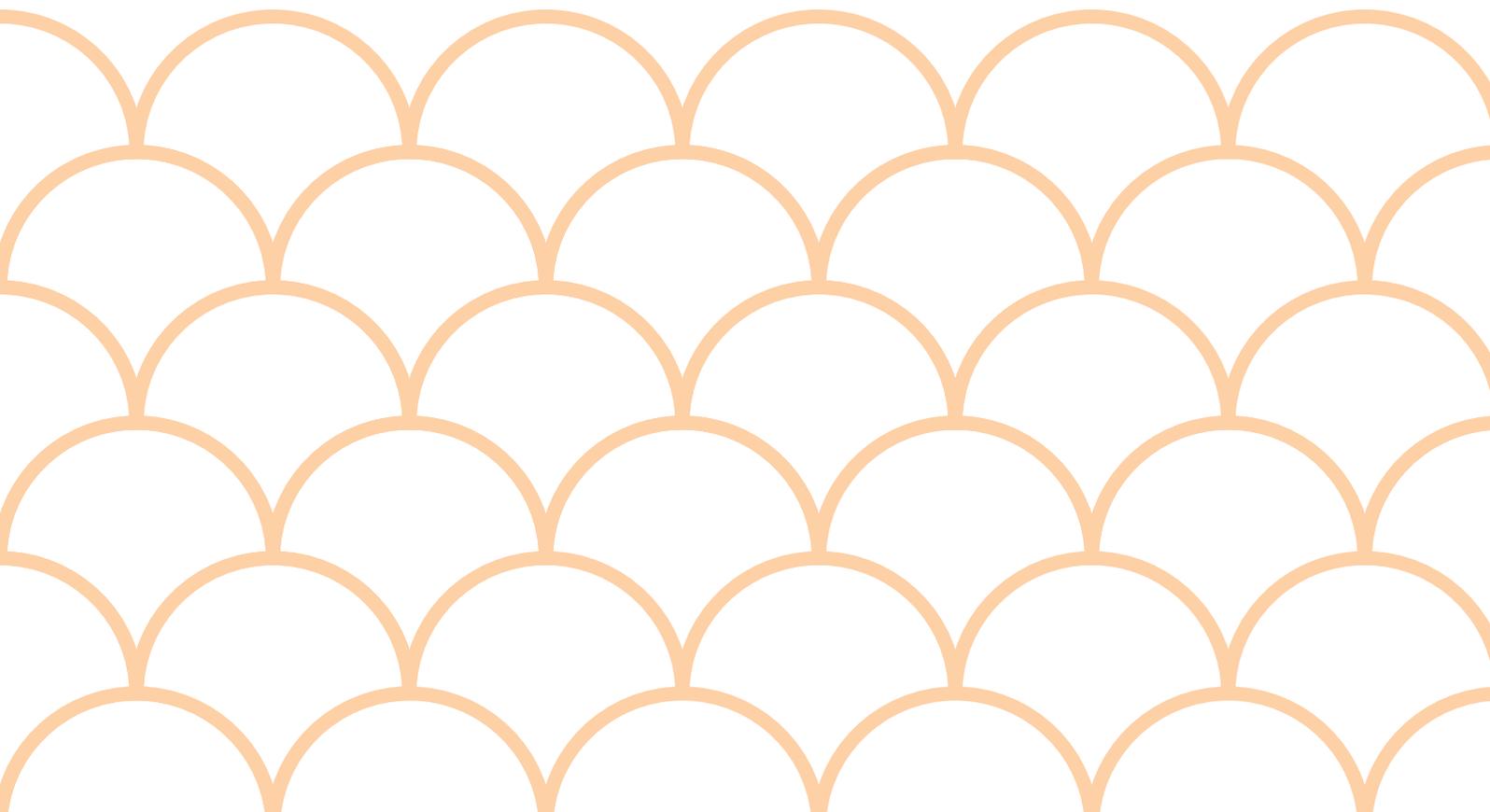




伝統と革新の、その先へ
1928 - 2028

横浜市立大学基金 2023年度 活動報告



平素より格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

予測困難な時代の中、大学に求められる役割が大きく変化しています。また、急激な円安による物価高騰などの社会情勢の変化にも柔軟に対応していくため、自律的かつ持続可能な法人経営の実現に向けた改革を進めているところです。このような状況の中、ご寄附をいただいた皆様におかれましては、本学への多大なるご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

本学にとりまして今年度は、第4期中期計画（令和5年度～令和10年度）の計画達成に向けた取組を加速させる重要な年です。「国際都市横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す」というYCUミッションのもと、豊かな教養と高い倫理観により新たな価値を創造する人材の育成を進めています。また、「研究の横浜市立大学」として、令和5年度には文部科学省「地方中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され、オープンイノベーションによる研究成果の社会実装に取り組んでいます。

横浜市をはじめ国内外で貢献し、世界で活躍する優れた人材の育成や、新たな価値創造を目指した研究活動の推進、キャンパス環境整備、医学部・病院再整備等を実現するためには皆様のお力添えが欠かせません。

2028年には、横浜市立大学は設立100周年を迎えます。市民の誇りとなる大学の存在意義を高め、横浜市民はもとより、広く国際社会に貢献する大学・病院となるよう努めてまいりますので、引き続きのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年9月

公立大学法人横浜市立大学 理事長

近野 真一

SHINICHI KONNO



DONATION MENU

寄附メニュー（支援先）

理事長挨拶 P.01

創立100周年記念事業

大学に一任 P.03
ビジネス人材育成・留学支援プロジェクト P.04
新たな研究創生プロジェクト P.04
学生生活・環境改善プロジェクト P.05
医学部・病院再整備プロジェクト P.05

広く大学・学生への支援

大学支援 P.06
学生支援 P.06

プロジェクト支援

YCUシミュレーションセンター募金 P.07
YCU修学支援基金 P.07
YCU研究支援基金 P.07
YCU留学サポート奨学金 P.08
新型コロナウイルス対策基金 P.08

附置研究所等・附属病院への支援

木原生物学研究所 P.09
先端医科学研究センター P.09
学術情報センター（図書館） P.10
附属病院 P.11
附属市民総合医療センター P.11

コラム

伊藤雅俊奨学金制度 P.12

感謝の気持ちを込めて

顕彰制度 P.13

紺綬褒章 P.15

遺贈による寄附のご案内 P.16

2023年度寄附実績 P.17

寄附のしかた P.18

税制上の優遇措置 P.18



創立100周年記念事業



横浜市立大学全体を支援（非目的指定寄附金）

大学に一任

幅広く大学運営に活用するほか、大学の基金として積み立てて、将来に向け活用します。

寄附の活用例

- 国際商学部プロジェクト
 - ボランティア活動支援
- ※篤志家から受け入れた寄附金を寄附者の意向を踏まえて活用

1 国際商学部プロジェクト

ゲスト講師を招いて100周年寄附講座（特講社会貢献型実習）を行い、多くの学生が出席しました。講義を受けた学生より「貴重な講義を受けさせていただきありがとうございました」と御礼の言葉がありました。

○ 学生より講義を受けた感想と寄附者への御礼

起業に関する講義は一年次にも履修したのですが、その時は「起業」ということが漠然としたイメージしかできずにいました。しかし、「起業家に学ぶ」の講義で実際に起業した方のエピソードや組織作りの大変さを聞いたことで、教科書で学んできた「起業」が具体的なイメージとなり、これまでの学びが形になったと感じました。

国際商学部2年 **長森 あずさ** さん
AZUSA NAGAMORI



「起業家に学ぶ」の講義を履修する中で、企業ごとに様々な形で特色ある社会貢献事業を行っていることを知りました。例えば大学生に向けて今回のような講義を行うということも社会貢献の一環としての事業であり、企業としての事業と社会貢献を結び付け、形を変えて社会課題を解決しようと取り組んでいることを学びました。

国際商学部2年 **田原 佑菜** さん
YUNA TACHIHARA



2 ボランティア活動支援

病院内家庭教師などの活動を行う学生ボランティア団体「one by ONE」の活動に活用しました。

○ one by ONE※から寄附者へのメッセージ

one by ONEの活動にご支援いただき誠にありがとうございます。私たちは、小児病棟に入院している患者さんを対象にオンラインによる学習支援とイベントを行っています。頂戴した寄附金は、家庭教師やイベントでお子さんに貸し出すiPad、イベントの記念品制作の費用などに活用しております。「わからないことが聞けて良かった!」「イベント楽しかったから次も出たい!」というお子さんの声や「親子でワクワクする時間を過ごすことができました」といったご家族の声が私たちの活動の糧となっており、これらは皆さまのご支援とご協力により成り立っております。ぜひ今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

※one by ONEは横浜市立大学に所属する学生団体です。





ビジネス人材育成・留学支援プロジェクト

世界に羽ばたくグローバル人材育成

豊かな人間性と高い専門能力を備えた「横浜から世界へ羽ばたく」人材を育成しています。世界で活躍する優れた人材・ビジネスリーダーの輩出を更に推進するため、グローバルな視点から自らの課題をもって海外へチャレンジする学生を広く支援します。

寄附の活用例

- はまぎんGlobalChallengeプログラム
- NIコンサルティングチャレンジプログラム
- グローバルリーダー育成プログラム
- 卒業生によるアントレプレナー教育支援など

○ はまぎんGlobalChallengeプログラム 奨学生の感謝の言葉

10か月の留学は、私にとって人生の大きな転機であり、デンマーク・フォルケ留学では北欧の教育とスローライフを実体験し、ウガンダでの活動は、全く異なる環境で新たなライフスキルを習得し、新たな夢を抱くことができました。この貴重な経験を通じて得たものを、より多くの人々に還元できるよう努めてまいります。

国際教養学部 国際教養学科3年

荒波 杏さん
ANZU ARANAMI



○ NIコンサルティングチャレンジ プログラム奨学生の感謝の言葉

私は、記憶力を競い合う頭脳競技「メモリースポーツ」に取り組んでいて、国際大会に出場し日頃の練習成果を発揮することや、競技の普及活動を目標に掲げていました。本プログラムに採択いただき、目標を達成することができました。心より感謝申し上げます。今後もさらなる高みを目指し、努力を続けてまいります。

生命医科学研究科1年

外園 清香さん
SAYAKA HOKAZONO



新たな研究創生プロジェクト

世界に発信する研究の創生と研究者育成

新たな医療、そしてヨコハマのさらなる魅力の創出に向けた研究プロジェクトを展開し、社会に還元するとともに卓越した研究を発信し続ける基盤を築きます。また、この研究プロジェクトを通じて将来を担う優れた研究者を育成するとともに、若手研究者のキャリア教育支援の一層の充実を図ります。

寄附の活用例

- 大学フェローシップ創設事業
- YCU未来共創プロジェクトなど

○ 「大学フェローシップ創設事業」の支援を受けた学生の感謝の言葉

私は、近年新たな治療法として期待されるiPS細胞由来製品の品質評価法に関する研究を進めてきました。修士時代は研究とアルバイトを両立しなければなりませんでした。博士課程では、本学フェローシップの支援を頂けたことで、研究活動に打ち込むことが出来ました。私の周りでも経済的な理由で進学を諦める人がいましたが、これらの支援のおかげか、直近では本学でも進学する人が増えているように思います。我々学生からすると、皆様からの支援は大変ありがたいです。皆様からのご支援を活かして今後も活躍して参りたいと思います。



生命医科学研究科
浦澤 貴哉さん
TAKAYA URASAWA



学生生活・環境改善プロジェクト

学生のための環境整備

学生が発想豊かに学び、伸び伸びとキャンパスライフを送るためには充実した学修環境・拠点が必要です。そこで、学生のための環境整備事業として、学生のニーズ等を把握しながら、ポストコロナ時代に即した学修スペースや学生交流室などの設置に向けプロジェクトを推進していきます。

寄附の活用例

● 総合体育館の修繕

● 第1講堂の換気設備工事

○ 総合体育館修繕に活用しました

卒業式・入学式で操作エラーが起こった舞台機構、照明のLED化、古くなってしまった背景幕の修繕に活用しました。



2024年度入学式



医学部・病院再整備プロジェクト

附属2病院と医学部、医学研究施設などの再整備

医学部・病院再整備に向けて「最高水準の医療・医学研究・人材育成拠点へ～横浜の丘からみらいへ発信し続ける大学～」というビジョンを掲げました。将来にわたってヨコハマの医療発展の拠点となることを目指します。

寄附の活用例

● 海外の先進的な大学・病院等の事例調査

○ 主な用途※

※再整備事業計画の進捗により変更の可能性があります。



医療者・研究者の育成

最先端のシミュレーションセンターを設置し、優秀な人材を育成します。また、育児等で臨床を離れた医師・看護師の職場復帰支援など、生涯を通じて支援します。



地域医療の人材交流拠点

地域全体の医療の質向上に向け、地域の医療関係者が集えるよう、学会開催を想定したホールやカンファレンスルーム等を設置します。また市民向けの医療講座等にも活用します。



横浜医療の歴史資料館

日本でいち早く西洋医療を取り入れた横浜医療の歴史を学べるエリアを設置し、学生をはじめ多くの市民に開放します。

広く大学・学生への支援

大学支援

大学の重点事業や、老朽化した校舎の改修、研究施設の整備、伝統的景観の維持など、広く大学発展のために活用します。

※現在は受入れを休止しています。創立100周年記念事業「大学に―任」への寄附をお願いしています。



寄附の活用例

● 福浦キャンパス講義室改修

● 学生ラウンジ改修

学生支援

部活動やサークル、ボランティア活動、インターンシップ、学会参加など、学生の主体的な活動を支援します。

※現在は受入れを休止しています。創立100周年記念事業「学生生活・環境改善プロジェクト」への寄附をお願いしています。



寄附の活用例

● 部活動で使用する施設の整備改修

● 課外活動支援

○ ご支援いただいたヨット部の学生からの感謝の言葉

私たちヨット部は今年の秋のインカレ大会において、団体戦全日本大会出場を目標に活動しております。そしてこの度は、活動資金の補助と、新艇の購入を目的にヨット部OB・OGの方を中心に寄附のお願いを申し上げました。皆さまからの温かいご支援により、4月末に新艇を納艇することができました。ご寄附をくださった方々へ、この場を借りて厚く御礼申し上げます。先日行われた春インカレでは無事目標を達成することができました。今後とも、応援のほどよろしく願いいたします。



ヨット部主将 **野口 珠希** さん
TAMAKI NOGUCHI

プロジェクト支援

YCUシミュレーションセンター募金

シミュレーションセンターは、福浦キャンパス内にあるシミュレーターを用いて卒前・卒業後・生涯教育を行うための施設です。学生（医学科・看護学科・大学院生）、研修医、看護師などが、日々、安全で質の高い医療を提供するための訓練をしています。寄附金は高性能シミュレータの購入等に充当し、学生が主体的に学び、臨床技術を磨くための環境を整えます。



シミュレーションセンターご紹介動画



YCU修学支援基金（税額控除対象）

意欲と能力があるにも関わらず、経済的理由により修学が困難な学生を支援し、教育を受けられる環境を整えるための基金です。2023年度は経済的困窮度の高い1年生63名に入学時にかかる施設整備費相当額を支給しました。



寄附の活用例

- 入学金または授業料の免除及びその他学生の経済的負担の軽減を図る事業
- 学生への奨学金支給
- 教育上の必要があると認めた学生等による海外への留学に係る費用の支援
- リサーチ・アシスタント及びティーチング・アシスタントに係る経費の支援

YCU研究支援基金（税額控除対象）

学生や不安定な雇用状態にある研究者が安心して研究に専念できる環境を整備するための基金です。

寄附の活用例

- 研究活動に要する費用
- 他の研究者との交流促進にかかる費用
- 研究活動の成果を発表するために必要な費用（学会参加、旅費など）

○ YCU修学支援基金・YCU研究支援基金への寄附は「税額控除」の適用対象となります。

横浜市立大学へのご寄附は税制上の優遇措置が適用されます。中でもYCU修学支援基金・YCU研究支援基金への個人の方からのご寄附については、「所得控除」に加え「税額控除」の適用対象となります。確定申告の際に、いずれかの制度をお選びいただけます。詳しくは18ページをご覧ください。

YCU留学サポート奨学金

セメスター留学*派遣学生のうち、特に優秀な学生に奨学金を支給する制度です。

*海外の大学において、1セメスター（半年）または1アカデミックイヤー（1年）の間、教養科目や専門科目の単位を取得するプログラム

※現在は受入れを休止しています。創立100周年記念事業「ビジネス人材育成・留学支援プロジェクト」への寄附をお願いしています。



奨学金支給額
(1人あたり)

● 1セメスター（半年）渡航

50万円

● 1アカデミックイヤー（1年）渡航

100万円

新型コロナウイルス対策基金

新型コロナウイルス対策基金は2023年3月末に募集を終了しました。ご支援をいただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

寄附金は学生支援や附属2病院の感染対策など、有効に活用させていただいています。



寄附の活用例

● 食の支援（2024年度も継続中）

● 救急車の購入

● 附属2病院の感染対策など（2024年度も継続中）

○ 救急車を購入しました（附属病院）

新型コロナウイルス流行時には感染症診療と一般診療の両立が困難となり、病床が非常にひっ迫しました。購入により、感染症流行時には、急性期治療がひと段落した患者さんを連携病院等へ速やかに搬送することで、限られた病床を有効活用できるようになりました。また、災害発生時には、附属病院のDMAT（災害支援チーム）が被災地で医療支援活動する際にも活用します。



附置研究所等・附属病院への支援

木原生物学研究所

木原生物学研究所は、コムギの染色体群を詳細に分析することにより、ゲノムの概念を確立したことで著名な故木原均博士の研究業績を引き継いだ施設です。研究所が所有するコムギなどの遺伝資源を用い、ゲノム科学的方法を活用した研究を展開しており、その研究成果は世界的に権威のある学術雑誌に多数掲載され、高く評価されています。また、理化学研究所や農研機構をはじめとし

た著名な研究機関と連携し、国際協力を積極的に推進するなど、最先端の植物科学研究拠点として、世界や地域が抱える課題解決を目指しています。



(横浜市戸塚区)

先端医科学研究センター

先端医科学研究センターは、がんや生活習慣病などの疾患克服を目指し、福浦キャンパスの医学部や附属病院に隣接して設置された施設です。最新の機器を整備した解析センターでは、ゲノムやタンパク質、細胞の解析などの技術をもとに、創薬や治療法の開発など、優れた基礎研究の成果を臨床に応用する橋渡し研究（トランスレーショナ

ル・リサーチ）を推進しています。また、最近では、新型コロナウイルスの抗体や抗原に関する研究において大きな研究成果を上げ、社会実装につなげています。



(横浜市金沢区)

学術情報センター（図書館）

横浜市立大学には幅広い分野の資料を集めた学術情報センター（金沢八景キャンパス）と、医学系の資料に特化した医学情報センター（福浦キャンパス）のほか、各拠点に3つの図書室があります。約90万冊の蔵書とさまざまな場面で活用できる学修スペースは、学生・教職員に限らず広く一般の方にも利用されており、地域の情報拠点となっています。

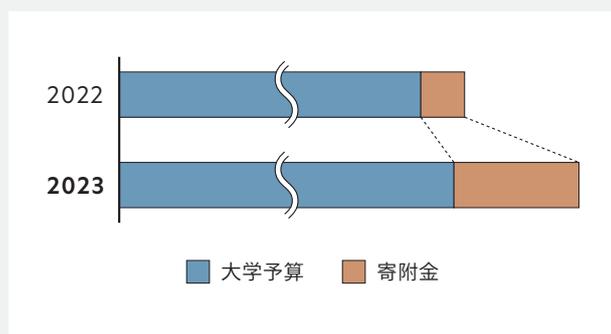


○ 電子ジャーナル価格高騰への対応

昨今の円安の影響等により価格が高騰しており、特に電子ジャーナル等の学術雑誌の価格は1990年から2020年までの30年間で1誌当たり約10倍になるなど、大学図書館を取り巻く状況は、厳しさを増しております。

こうした状況を踏まえ、学術情報センター（図書館）では、図書館支援に特化した寄附の募集を広く周知したところ、多くの皆様からの温かいご支援をいただき、電子ジャーナル等の購入費用に活用しました。

電子資料費における寄附金額の割合推移



○ 記念品のご用意について

ご寄附いただいた方に対して、図書館利用の優遇制度や記念品といった特典をご用意し、大変ご好評をいただきました。

2024年度もより多くの方にご関心いただけるよう、特典内容の見直しを予定しております。

記念品（例）



オリジナルエコバック

ブックカバー（上）／図録（下）

○ YCU古本募金も学術情報センター（図書館）に活用しています

横浜市立大学では読み終わった本やDVD、CD、ゲームソフトの買取額を全額横浜市立大学学術情報センター（図書館）の支援に役立っています。

2023度も多くの皆様のご支援により電子ジャーナル購入に活用しました。



附属病院

福浦キャンパスの医学部に隣接する附属病院は、横浜市唯一の「特定機能病院」であり、377万人の横浜市民の医療の最後の砦として安全かつ高度な医療を提供しています。さらに、附属市民総合医療センターと協同して多くの実習生や臨床研修医を受け入れています。



(横浜市金沢区)

寄附の活用例

- 医療機器、院内環境の整備
- 医療スタッフの育成
- 研究の推進

附属市民総合医療センター

附属市民総合医療センターは、市民の生活に密着した医療機関であると同時に市内唯一の高度救命救急センターを有する三次救急医療の拠点でもあります。附属病院とともに高度で先進的な医療や合併症など集学的治療を必要とする症例の受入れを進め、横浜市の医療の充実に貢献しています。



(横浜市南区)

寄附の活用例

- 医療機器、院内環境の整備
- 医療スタッフの育成

○ 寄附者のメッセージ

附属2病院へいただいた温かいメッセージの一部をご紹介します。

附属病院	今日に至るまで計4回の手術を受けたこととなります。毎回入院のたびにスタッフの皆様によくして頂き、おかげさまで元気しております。少しでも大学、病院にかかる患者様のお役に立てれば幸いです。
	長い間心臓病でお世話になっていて、今回大きな手術を無事終わる事が出来ました。先生方スタッフの方々に深く感謝しております。ほんの少しでもお役に立てていただければとの思いからです。
	母親の入院に際して、主治医はじめ先生の方々及び病棟職員の方々の看護のお陰で回復しました。医療現場は多忙を極める中で、少しでもお力になればと思い寄付させていただきます。
附属市民総合医療センター	入院通院中に受けた処置は最新技術のすばらしいものだった。これ等の装置を含め、技術を充実させるために微力ですが、寄附します。
	病院に20年来お世話になってきました。感謝の気持ちを込めて寄附します。医療の充実や人材育成に役立てて下さい。
	最新の地域医療支援病院で治療を受け先生方や各科の素晴らしさ、また、診療部門間連携の良さに感激しました。更なる最高峰の医療現場になります様にと寄付をさせていただきます。

コラム

伊藤雅俊奨学金制度

伊藤雅俊奨学金制度は、本学卒業生で株式会社セブン&アイ・ホールディングス名誉会長の故・伊藤雅俊氏からいただいたご寄附により2009年に創設した制度です。国際商学部から優秀な成績を収めた学生を選出し、これまでに43名に奨学金を授与しています。



- 対象： 国際商学部（2～4年生）のうち、前年度に特に優秀な成績を収めた学生
- 人数： 6名（各学年2名）
- 給付額： 25万円/人

○ 伊藤雅俊氏の略歴

株式会社セブン&アイ・ホールディングス名誉会長（1924～2023年）

1944年横浜市立商業専門学校（現横浜市立大学）卒業。1945年足立区千住で実家の洋品店に従事。1958年イトーヨーカ堂設立。イトーヨーカドー、セブン-イレブン、デニーズなどセブン&アイ・ホールディングスの創業者として、革新的経営を導入、各地に事業を展開した。

著書：「商いの道-経営の原点を考える」（PHP研究所 1998年）、「伊藤雅俊の商いのこころ」（日本経済新聞社 2003年）など



伊藤雅俊奨学金表彰式の様子



伊藤雅俊奨学生

公益財団法人伊藤謝恩育英財団
理事長 山本尚子 様
拝啓
令和五年 伊藤雅俊奨学金奨学生に選出されたこと、
横浜国立大学国際商学部三年の矢島萌乃と申します。
この度は名誉ある奨学生に選出していただき身に余る光栄に存じます。
昨年度は専門科目の受講やゼミナールが始まり、学部の面白さと困難さを
感じる場面が増えました。普段の勉強以外に、留學やインターシップ、
ボランティアを通じて、多様な人との関わりを経験させて頂きました。
私が自由に自分の時間を使えることに挑戦することができているのは、
下である全ての方が作り上げて下さったこの環境のおかげです。
周りに感謝することを忘れず、恵まれているこの責任を果たすための力を
つねに、日々できることを積み重ねて参ります。
どうぞ、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
敬具
令和五年 九月十日
横浜市立大学 国際商学部 三年 矢島萌乃

伊藤雅俊奨学生からの手紙

感謝の気持ちを込めて

顕彰制度

横浜市立大学をご支援くださる皆さまとのつながりを大切にするため、また、多くの皆さまによって本学が支えられていることを広く知っていただくため、累計寄附金額を基準とした顕彰制度を設けています。下記のほかにも高額のご寄附をいただいた方には、大学主催のイベントへのご招待や記念植樹なども別途ご用意しております。



1 寄附者銘板

寄附累計額が10万円以上の個人、30万円以上の法人・団体の皆さまにつきましては、寄附者銘板にご芳名を記し、末永く顕彰させていただきます。



金沢八景キャンパス市大交流プラザ
(いちょうの館)に設置しています。

称号	個人	法人・団体	色・サイズ
特別栄誉会員	5000万円以上	1億円以上	ゴールド
栄誉会員	1000万円以上	5000万円以上	ゴールド
特別功績会員	500万円以上	1000万円以上	シルバー
功績会員	100万円以上	500万円以上	ブロンズ
特別貢献会員	30万円以上	100万円以上	ブロンズ
貢献会員	10万円以上	30万円以上	ブロンズ

2 寄附者芳名録

寄附者の皆さまに感謝の気持ちを込めて、本学Webサイトにご芳名を掲載させていただきます。なお、匿名を希望された場合は掲載しておりません。

3 感謝の集い

横浜市立大学基金へ一定額以上のご寄附をいただいた個人・法人・団体の皆様をお招きして開催します。

○ 令和5年度感謝の集いを開催しました

「感謝の集い」を9月20日に横浜市立大学金沢八景キャンパスYCUスクエアで行いました。新型コロナウイルス感染症により見合わせていたため4年振りの開催となりましたが、多くの寄附者にご参加いただきました。



第一部では、はじめに小山内理事長（当時）より開催のご挨拶として日頃の感謝を申し上げ、本学の近況および展望を述べました。続いて、遠藤副学長（当時）が令和4年度の寄附実績報告を行い、その後、YCU留学サポート奨学金受給生の木野村さんより留学体験の報告、学生ボランティア団体「one by ONE」の中道さん、白川さんからは活動報告を寄附者の皆様へ感謝の気持ちとともにお伝えしました。また、石川学術情報センター長（当時）からは寄附者の皆様への御礼と引き続きのご支援のお願いをいたしました。



YCU留学サポート奨学生 木野村さん



one by ONE 中道さん、白川さん



小山内理事長挨拶

第二部では、ピアノホールにて懇親会を行い、軽音楽部の高本さんのアコースティックギターの音楽を聴きながら、寄附者の皆様と理事長、学長をはじめ教員や学生が歓談し、終始和やかな雰囲気では終了いたしました。感謝の集いでは、ご支援いただいている皆様から本学へのご意見や期待を直接お伺いすることができ、貴重な会となりました。



紺綬褒章

紺綬褒章は国の褒章制度のひとつで、公益のために私財（個人は500万円以上、法人等は1,000万円以上）を寄附した方に授与されます。本学は内閣府賞勲局より公益のために私財をご寄附された方に授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けており、寄附者様のご意向を確認のうえ本学から申請します。



本学へ多額のご寄附をいただいた寄附者の紺綬褒章伝達式を執り行いました。

寄附者からの言葉や伝達式の様子

2022年6月に附属病院へご寄附をいただきました武田様の紺綬褒章の伝達式を2023年10月に附属病院にて執り行いました。

○ 武田様（寄附者）からのメッセージ

私は2014年に膵内分泌腫瘍多発肝転移が見つかり、途方に暮れながらも自身で治療法を調べ、私は海外で行われている「SIRT」という治療をシンガポールで受けました。

帰国後のフォローアップを臨床腫瘍科の小林先生にしていたことが本日まで横浜市立大学様にお世話になる事になったきっかけでございます。そして「SIRT」と同じ



く海外で行われていた治療「PRRT」を横浜市立大学様はスイス・バーゼル大学と連携をし、治療を希望する日本の患者さんを送っていました事に感銘を受けました。そしてその高額治療費を日本での保険適用認可に向けて多大な熱量を持ってご尽力され、私達患者のために国内での治療を実現していただきました事。この言葉で表す事のできない感謝の気持ちを、せめてもの形にしたいとの思いでご寄附をさせていただきました。

放射線科の先生方も含め、情熱と私達患者の心に寄り添ってくださる先生方に続く素晴らしい未来の医師、そしてチームを作り育てて頂きたく期待をしております。最後になりますが横浜市立大学の皆様に改めて心からの感謝を申し上げます。



遺贈による寄附のご案内 ～ 生きた証を後世に残す～

人生の集大成として、これまで築いてきた思いとともに財産の一部を後世に託したいという方が増えています。

横浜市立大学では生きた証を後世に残すという大切なご遺志を受け継ぎ、それを実現するため金融機関と提携し「遺贈による寄附」の制度を設けています。

未来を切り拓く横浜市立大学の教育・研究・医療活動の一層の発展のため、何卒ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

あなたの想いを
未来に託して
みませんか

横浜市立大学は、
「遺贈による寄附」
「相続財産からのご寄附」
を受け入れています。

いただいた寄附金は、
本学の教育・研究・医療のために
大切に活用させていただきます。



遺贈による寄附

- 遺贈とは、遺言書を作成し、遺産を特定の人・団体に贈る（寄附する）ことです。
- 遺言書の中で財産を譲り渡す先の一つに、「横浜市立大学」をご指定いただければ、遺言執行時に本学へ連絡が入り、受け入れ手続きを行います。
- 遺言書の作成には必要な要件が厳しく規定されているため、司法書士や弁護士等、専門家の助言を受けて作成するか、公証役場のご利用をお勧めします。また、本学と提携している金融機関でも遺贈のご相談から遺言書の作成、保管、執行を行います。
- 本学へ遺贈した財産は相続税の非課税財産になります。
- 現物資産（有価証券、土地、建物など）によるご寄附の場合、みなし譲渡所得税について非課税となります。

事例 1

○ 教育環境整備

遺贈先：医学部

卒業生より医学部への遺贈の申出があり、医学部の教室改修など教育環境整備のために活用させていただきました。



事例 2

○ かもめ基金

遺贈目的：医学研究

附属病院の患者さんより医学の研究・発展に寄与することを目的として医学研究科への遺贈の申出があり、これを財源として「かもめ基金」を創設し、本学の医学研究発展のため研究費に活用するほか、医療人材の育成および医療の質の向上に必要な機器購入等にも活用させていただきました。



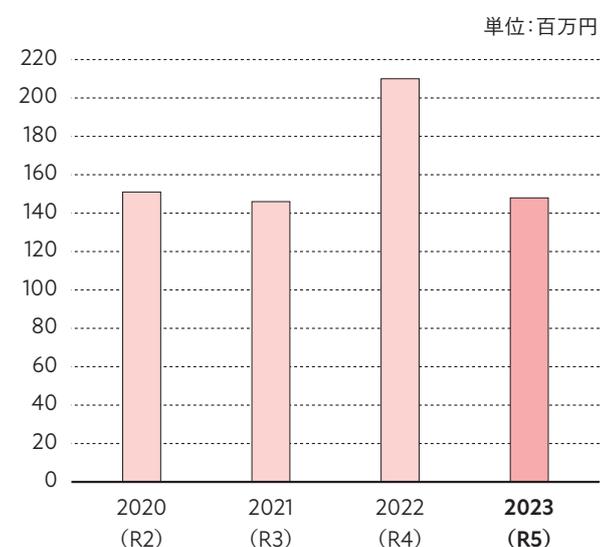
2023年度 実績報告

寄附の件数及び総額

寄附件数	寄附金総額
937件	147,353,807円

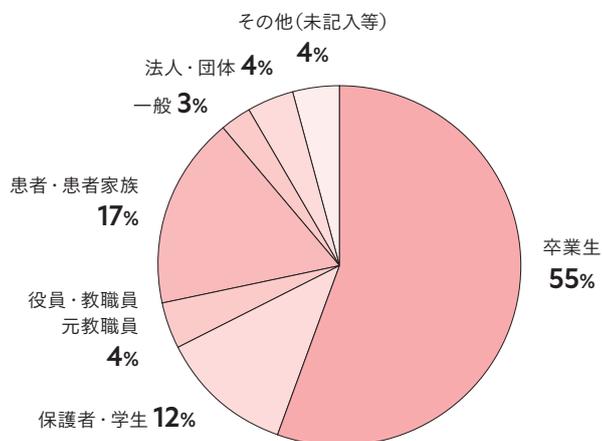
2008年度～2023年度累計:7,511件 (1,186,932,000円)

寄附金額推移



寄附者の属性

卒業生からの寄附件数が最も多く、患者・患者家族や保護者をはじめ多くの方々からご支援をいただいています。



内訳

寄附目的	件数	寄附金額(円)	
創立100周年記念事業	大学に一任(非目的指定寄附)	230	26,590,500
	ビジネス人材育成・留学支援	35	13,447,000
	新たな研究創生	32	4,600,300
	学生生活・環境改善	167	3,789,400
	医学部・病院再整備	151	35,745,452
大学支援	18	2,174,000	
学生支援	22	2,253,000	
YCUシミュレーションセンター募金	13	1,743,000	
YCU修学支援基金	21	1,237,000	
YCU研究支援基金	4	100,000	
YCU留学サポート奨学金	—	—	
新型コロナウイルス対策基金	2	62,000	
木原生物学研究所	—	—	
先端医学科学研究センター	3	230,000	
学術情報センター	90	9,253,500	
附属病院	98	32,447,611	
附属市民総合医療センター	51	13,374,000	
古本募金	—	307,044	
合計	937	147,353,807	

寄附金の活用

使 途	金額(円)
教育・研究支援	33,840,983
医学・医療振興支援	11,280,539
大学支援	53,050,539
学生支援	6,536,726
新型コロナウイルス対策関連	18,648,207
附属病院	8,269,825
附属市民総合医療センター	1,631,262
合計	133,258,081

金額には、過年度の寄附金・遺贈を活用したものを含まず、寄附金の残額は、次年度以降も活用させていただきます。

寄附のしかた

1 本学指定の払込取扱票によるお申込み

本学所定の振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの金融機関よりお振込みください。

振込用紙をお持ちでない方は、郵送させていただきますので、お手数ですが基金担当までご連絡ください。

※その他、現金以外の有価証券、不動産等のご寄附についてもご相談を承ります。

横浜市立大学基金担当

045-787-2447

Mail: kifuf@yokohama-cu.ac.jp

Web: www.yokohama-cu.ac.jp/giving/kifu/

2 Webサイトからのお申込み

横浜市立大学基金Webサイトから下記の方法でお申込みいただけます。

- クレジットカード決済
- インターネットバンキング決済
- コンビニ決済

※継続寄附(毎月・年2回・毎年)もお選びいただけます。

横浜市立大学基金Webサイト

横浜市立大学基金

検索

<https://fundexapp.jp/ycu/exp/explanation.htm>



税制上の優遇措置

個人の場合

横浜市立大学へのご寄附には税法上の優遇措置が適用されます。後日お送りする寄附金額収書を控除証明書として確定申告書に添付し、所轄税務署へご提出ください。

1 所得税

所得控除

寄附金額から2,000円を引いた額を当該年の所得金額から控除できます。

税額控除 (YCU修学支援基金、YCU研究支援基金のみ対象)※

寄附金額から2,000円引いた額に40%を乗じた額を、所得税額から控除できます。税率に関係なく所得税額から直接控除されるため、多くの方にとって所得控除と比較して減税効果が大きくなります。

※確定申告の際に「所得控除」と「税額控除」のいずれか一方の有利な制度をお選びいただけます。

2 住民税

寄附をした翌年1月1日時点で神奈川県または横浜市にお住まいの方は、寄附の翌年の個人住民税の控除を受けることができます。

$$\text{住民税控除額} = (\text{寄附金額}^{\ast 1} - 2,000\text{円}) \times \text{控除率}^{\ast 2}$$

※1 その年の総所得金額等の30%が上限

※2 横浜市以外の神奈川県市町村にお住まいの方は2%または4%、横浜市にお住まいの方は10%です。

税制上の優遇について
詳しくはこちら



法人の場合

法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金算入することができます。

法人からのご寄附について

会社等法人からのご寄附については「法人用寄附申込書」をお送りいたしますので、お手数ですが基金担当までご連絡願います。

優遇措置を受ける手続き

- 確定申告の際に、本学が発行する「寄附金額収書」を添えて税務署に申告してください。(住民税の寄附金控除のみを受ける場合は、市区町村に申告してください。)
- 「寄附金額収書」は、入金方法により到着までに10日から3週間程度かかる場合がございますので、ご容赦ください。



横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

ご寄附に関するお問い合わせ先

横浜市立大学 卒業生・基金担当

045-787-2447

Mail: kifu@yokohama-cu.ac.jp

Web: www.yokohama-cu.ac.jp/giving/kifu/

